

第1問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。

1. 決算において、当座預金勘定の貸方残高 ¥ 250,000 を適切な勘定に振り替える。

ア. 当座預金 イ. 預り金 ウ. 未払金 エ. 損益 オ. 当座借越 カ. 普通預金

2. 前期に貸倒れ処理していた得意先に対する売掛金 ¥ 500,000 のうち ¥ 100,000 が回収され、当社の普通預金口座に振り込まれた。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 250,000 である。

ア. 売掛金 イ. 貸倒損失 ウ. 普通預金 エ. 償却債権取立益 オ. 貸倒引当金
カ. 貸倒引当金戻入

3. 販売目的で中古の軽トラックを ¥ 500,000 で購入し、代金は月末に支払うことになった。また、軽トラックの輸送費用 ¥ 30,000 を現金で支払った。なお、当社は中古車販売業を行っている。

ア. 現金 イ. 未払金 ウ. 買掛金 エ. 車両運搬具 オ. 支払手数料 カ. 仕入

4. 従業員への給料の支払いにあたり、給料総額 ¥ 4,000,000 から従業員が負担すべき社会保険料（健康保険料 ¥ 200,000 および厚生年金保険料 ¥ 300,000）を差し引き、残額を普通預金口座から振り込んだ。

ア. 保険料 イ. 租税公課 ウ. 給料 エ. 法定福利費 オ. 普通預金 カ. 社会保険料預り金

5. 月末に金庫を実査したところ、紙幣・硬貨 ¥ 362,000、得意先振出小切手 ¥ 100,000、得意先振出約束手形 ¥ 150,000、収入印紙 ¥ 2,000、送金小切手 ¥ 10,000 が保管されていたが、現金出納帳の残高は ¥ 470,000 であった。現時点で不一致の原因は不明のため、現金過不足勘定で処理することにした。

ア. 現金 イ. 雑益 ウ. 当座預金 エ. 現金過不足 オ. 雑損 カ. 普通預金

6. 毛利商店に商品 ¥ 600,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 400,000 は自治体が発行した商品券を受け取り、残額は掛けとした。

ア. 受取手数料 イ. 毛利商店 ウ. 小早川商店 エ. 未収入金 オ. 売上 カ. 受取商品券

7. 資金を移動するために、吉川銀行の普通預金口座から穂井田銀行の普通預金口座に ¥ 800,000 を振り込んだ。なお、振り込みにあたり ¥ 275 の手数料が発生した。

ア. 当座預金天野銀行 イ. 普通預金吉川銀行 ウ. 当座預金二宮銀行 エ. 普通預金穂井田銀行
オ. 支払手数料 カ. 支払利息

8. ×2年8月21日に取得したフルカラー複合機（取得原価：¥ 900,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：5年、減価償却の計算方法：定額法、記帳方法：間接法）を、×4年8月20日に ¥ 550,000 で売却し、売却代金は月末に受け取ることにした。当社の決算日は3月31日であり、取得年度および売却年度の減価償却費は月割りで計算する。なお、当期の減価償却費は備品減価償却累計額を経由せずに直接計上すること。

ア. 備品減価償却累計額 イ. 固定資産売却損 ウ. 減価償却費 エ. 備品 オ. 固定資産売却益
カ. 未収入金

9. 宍戸商店から商品 ¥ 200,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、宍戸商店が負担することになっている配送料 ¥ 3,000 を現金で立て替え払いした。

ア. 支払運賃 イ. 仕入 ウ. 買掛金 エ. 支払手数料 オ. 未払金 カ. 現金

10. 建物・土地に対する固定資産税 ¥ 520,000 の納税通知書を受け取り、第1期分 ¥ 130,000 を現金で納付した。

ア. 建物 イ. 現金 ウ. 法人税等 エ. 租税公課 オ. 土地 カ. 法定福利費

11. 当期中に発生した売掛金 ¥ 100,000 が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 150,000 である。

ア. 売掛金 イ. 貸倒引当金 ウ. 雑損 エ. 売上 オ. 貸倒損失 カ. 償却債権取立益

12. 決算において、税引前当期純利益 ¥ 1,400,000 の30%を法人税等に計上した。なお、当社はすでに ¥ 240,000 を中間納付しており、仮払法人税等で処理している。

ア. 法人税等 イ. 損益 ウ. 未払法人税等 エ. 仮払法人税等 オ. 租税公課 カ. 前払金

13. 新店舗の賃貸借契約を締結し、2か月分の家賃 ¥ 400,000、不動産会社への仲介手数料 ¥ 200,000、敷金 ¥ 1,200,000 を現金で支払った。

ア. 建物 イ. 前払家賃 ウ. 差入保証金 エ. 支払地代 オ. 現金 カ. 支払手数料

14. 決算において貯蔵品の棚卸しを行ったところ、郵便切手 ¥ 8,400 と収入印紙 ¥ 10,000 が未使用のまま残っていることが判明したため、適切な勘定に振り替える。

ア. 発送費 イ. 租税公課 ウ. 仮払金 エ. 貯蔵品 オ. 法定福利費 カ. 通信費

15. 尼子鉄工所に商品を売り上げ、商品とともに以下の納品書兼請求書を発送し、代金は全額を掛けとした。なお、消費税は税抜方式で記帳処理している。

納品書 兼 請求書			
尼子鉄工所 御中		毛利両川株式会社	
商品名	数量	単価	金額
一本の矢	4	¥ 1,000	¥ 4,000
二本の矢	3	¥ 2,000	¥ 6,000
三本の矢	1	¥ 500,000	¥ 500,000
小計			¥ 510,000
消費税			¥ 51,000
合計			¥ 561,000

ア. 売上 イ. 仮受消費税 ウ. 仮払消費税 エ. 未払消費税 オ. 売掛金 カ. 租税公課

第2問 (20点)

(1) 以下の【商品 A に関する資料】にもとづいて商品有高帳に必要な記入を行ったうえで、①～⑤に当てはまる単価・金額を答えなさい。商品の払出単価の決定方法は移動平均法を採用しており、仕入戻しの商品有高帳への記入は払出欄に行うこと。なお、21日の仕入単価 @¥ 4,500 には、当社負担の引取費用 ¥ 3,000 が含まれていない点に留意すること。

【商品 A に関する資料】

8月1日 前月繰越 20個 @¥ 4,000
 9日 仕入 80個 @¥ 4,400
 13日 仕入戻し 20個 @¥ 4,400 ※9日仕入分の戻し
 15日 売上 70個 @¥ 6,200 ※当社負担の発送費 ¥ 6,000 は現金で支払った
 21日 仕入 30個 @¥ 4,500 ※当社負担の引取費用 ¥ 3,000 は現金で支払った

商品有高帳

(移動平均法)

商品 A

(単位：円)

×1年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	
8	1	前月繰越	20	4,000	80,000				20	4,000	80,000
									①		
							②				
						③					
			④								
	31	次月繰越					⑤				
				—			—				

(2) 上杉製塩株式会社は、取引を記帳するにあたって主要簿の他に答案用紙に示した補助簿を用いている。以下の取引はどの補助簿に記入されることになるか、該当する全ての補助簿の欄に○印を付しなさい。なお、該当する補助簿がひとつもない取引は、「該当なし」の欄に○印を付すこと。

- 長尾商店より商品 ¥ 900,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 350,000 は長尾商店宛ての約束手形を振り出して支払い、残額は掛けとした。
- 得意先佐野商店に商品 ¥ 1,000,000 (原価 ¥ 750,000) を売り上げ、代金のうち半額は同店振り出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。なお、当社では得意先振り出しの小切手を受け取ったさいにはただちに当座預金口座に預け入れることにしており、現金出納帳には通貨の増減のみを記入している。
- 先日、長尾商店から仕入れた商品 ¥ 160,000 に汚損があったので、同店に返品した。なお、代金は掛け代金から控除することにした。
- 得意先畠山商店に商品 ¥ 1,200,000 (原価 ¥ 900,000) を売り上げ、代金のうち ¥ 300,000 は当社振り出しの小切手を回収し、残額は畠山商店振り出しの約束手形を受け取った。
- 前期に得意先の武田商店が倒産し、そのさいに同店に対する売掛金 ¥ 200,000 について貸倒れ処理をしていたが、本日、現金 ¥ 100,000 を回収した。

第3問 (35点)

当社（会計期間は×3年4月1日から×4年3月31日までの1年間）の【決算整理前残高試算表】および【決算整理事項等】にもとづいて、下記の各問に答えなさい。なお、消費税の仮受け・仮払いは、売上時・仕入時のみ行うこととし、【決算整理事項等】の1. と6. 以外は消費税を考慮しない。

【決算整理前残高試算表】

決算整理前残高試算表
×4年3月31日

借方	勘定科目	貸方
3,421,600	現金	
6,068,900	普通預金	
5,125,000	売掛金	
1,862,000	仮払消費税	
550,000	仮払法人税等	
3,240,000	繰越商品	
2,400,000	備品	
3,600,000	貸付金	
	買掛金	5,222,000
	仮受消費税	3,519,000
	貸倒引当金	88,000
	借入金	900,000
	備品減価償却累計額	1,400,000
	資本金	8,000,000
	繰越利益剰余金	3,485,000
	売上	35,190,000
18,620,000	仕入	
675,000	通信費	
1,950,000	支払家賃	
440,000	減価償却費	
9,851,500	その他の費用	
57,804,000		57,804,000

【決算整理事項等】

- 仕入先から商品 ¥ 1,000,000 を仕入れ、代金は消費税（10%）を含めて掛けとしたが、この取引が未処理であることが判明したため適切に処理する。なお、消費税は税抜方式で記帳処理している。
- 当社では通信費について、1か月分をまとめて翌月末に支払う契約を通信事業者と結んでいる。×4年3月分の通信費は ¥ 58,000 であったため、期末に費用計上する。
- 売掛金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は ¥ 2,025,000 である。この金額には1.の未処理分は含まれていない。
- 当社では備品（残存価額：ゼロ、耐用年数：5年、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）について、毎月末に1か月分の減価償却費を月割りで計上している。3月分は未処理であるため、期末に費用計上する。
- 税抜方式により消費税の処理を行う。
- 貸付金は×4年2月1日に期間1年、利率年4%の条件で貸し付けたもので、利息は元本回収時に全額を受け取ることになっている。そこで、利息の未収分を月割りで適切に処理する。
- 支払家賃のうち ¥ 300,000 については×4年3月1日に向こう2か月分を支払ったものである。そこで、家賃の前払分を月割りで適切に処理する。
- 当期の法人税等が ¥ 1,000,000 と計算されたため、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。

問1 答案用紙の決算整理後残高試算表を完成しなさい。

問2 当期純利益または当期純損失の金額を答えなさい。なお、当期純損失の場合は金額の前に△マークを付すこと。